

2025年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	嶺田明美
教務主任名	嶺田明美

200字以内

今期の総評
回答率が3/5(60%)であまり高くないが、全体としては、どの項目も、4.33ポイントでおおむね、カリキュラム・授業、院生自身の評価はよいと思われる。

200字以内

改善のための方策
「9. コピー機・パソコン・プリンターの設備」の個別の回答でポイントが2の人が1名いた。コピー機は学部事務室・学科教授室のものが使用可能であり、またプリンタは院生室やパソコン教室のものが使用可能であるので、そちらの使用を促したい。「14. 研究室の諸活動や学会への参加」については、ポイント3が1名、ポイント4が2名であった。院生向けの外部講演会や専門の学会や研究会などへの参加を引き続き促し、この研究成果につなげたい。 指導教員からも働きかけて、FDアンケートへの回答を呼び掛けて、回答率をアップさせたい。

2025年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語教育専攻
専攻主任名	嶺田明美
教務主任名	嶺田明美

200字以内

今期の総評
<p>院文言については、すべての項目で、4.63ポイントで、全体としては良い結果であると思われる。今年度から、新専攻としてスタートしたが、特に、カリキュラムの適性性として、設問の2～5の個別の回答一覧を見た場合でも、回答者全員が4または5の評価をしており、在籍者にとって適正なカリキュラムであると考えられる。</p> <p>院英、院言についてもポイントは高く、全体的によい結果である。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>院文言は、研究に関連する諸活動や学会への参加のポイントが低い傾向があるので、院生が参加しやすい学会や研究会の紹介をする、外部講師講演会への参加を促す、などを今後も行いたい。引き続き、カリキュラムの適正については、検討したい。</p> <p>院英、院言ともに本年度で閉じるため、アンケートの結果は院文言で活かしたい。また、個別の意見については、それぞれの専攻の担当者から回答したい。</p> <p>以下、個別の意見に対しての回答。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院生室のコピー機・・・院生室にコピー機は設置していない。各事務室、学科教授室のコピー機を使用することになっている。こちらは、使い勝手については、個々の要望を聞くことができない。 ・箒と塵取り・・・すでに設置した。 ・湯沸かしポット・・・快適な部屋を提供したいと思うが、院生室は、研究（勉強）のための部屋であるため、それに直接、結びつかない物品を公費で購入することはできない。 ・院生室の統合・・・2026年度は統合しない。 ・TAに関連する学生アルバイト・・・アルバイトとしての募集は行っていない。教育支援課の「ピアサポートTA・SA制度」、CIEの日本人学生による外国人留学生サポートプログラムがあるので、協力できる範囲で協力してほしい。 ・院生向けの海外研修・・・大学院生のみを対象にしたプログラムはない。大学院生は個々の研究課題があり、それらを統合したプログラムの作成は、現実的ではないと思われる。また、長期休暇を利用して、まとまった調査や実験などを行う大学院生も多いため、大学院生だけで最低催行人数の確保は難しいのではないかと考える。個々で希望する場合は、学部生に開かれている短期プログラムは大学院生も参加できる。長期プログラムについても、条件が合致すれば参加が可能。こちらを利用してほしい。

2025年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	大谷津早苗
教務主任名	中村徳子

200字以内

今期の総評
回答率が 50%と芳しくないので今後はさらに呼びかけを徹底し 100%回答を目指したい。また、全体的に評価が低く、とくに「コピー機・パソコン・プリンターなどの設備は十分ですか」という質問に対しての評価が低いことについては早急に対応をしていく必要がある。

200字以内

改善のための方策
機構学専攻の学生数そのものが少ないので、アンケート調査は個別に実施した方が有効かもしれない。いずれにしても、設備に関する満足度が低いので、今後は予算を確保し、設備の充実を図りたい。

2025年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	湯上 良
教務主任名	三野 行徳

200字以内

今期の総評
ほぼすべての項目に4か5で回答があり、概ね院生からは教育・研究環境に一定程度の満足感を得られていると評価できる。カリキュラム・授業に関する設問の評価が高く、授業や研究指導は適切に出来ていると評価したい。一方で、設問10・11・12の評価が低く、オンライン授業や、院生室・ラーニングコモンズの活用に関しては課題を残す。院生生活に関しては、将来の進路や学内学会への参加などもやや評価が低いため、この点にも改善の余地がある。

200字以内

改善のための方策
評価の低かった院生室・ラーニングコモンズの活用については、年度初めのガイダンス時等に活用を促すなどして、より良い研究環境になるよう改善したい。学内学会についても、より有益な学会活動となるよう働きかけたい。将来については、生文には学部からの進学に加え、現職社会人、社会人生活を終えた方、留学生など、多様な方々が学んでいる。多様な方々が相互に影響し合いつつ将来を展望できるよう、あらためて検討したい。

2025年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	林 真理子
教務主任名	白川 哉子

200字以内

今期の総評
専門的な力がついたか/学位論文指導/研究指導/研究テーマに授業は役立ったか/授業内容に満足/学会への参加についての評価は4以上であった一方、院生研究室やラーニングcommons/コピー機などの設備についての評価は3.5以下であった。研究には主に研究室/実験室の設備や備品を使用し、文献検索はオンラインで行うため、本研究専攻において評価が低かったこれらの項目については、他の設備で補われている。

200字以内

改善のための方策
開講科目が履修の希望を満たしていない、授業が期待していたほどではない、将来の進路につながるものを発見できなかったとはいえない、という傾向を示す回答があった。来年度からは実務経験を持つ教員に科目担当や専任教員として関わっていただく機会を増やした。大学院教育課程の中で現場の話聞くことで将来の進路を考えられるようにできればと考えている。

2025年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野 隆則
教務主任名	榊原 良太

200字以内

今期の総評

「カリキュラム・授業」に関する項目は概ね平均が4を超えており、授業や研究指導に対して高評価を得ているが、「図書館や設備の利用」に関する項目の評価が3.5と、相対的に低い値となった。「研究室の諸活動や学会などへの参加」に関する項目の平均が3.6と、前期よりも高い値となったが、回答者によっては1と低い得点を付けているため、引き続き対応を続けていく必要がある。自由記述はコメントがなかったが、今後学生から直接意見や質問があった際には、適宜対応していく。

200字以内

改善のための方策

「研究室の諸活動や学会などへの参加」は前期に比べて上昇したものの、引き続き具体的な活動や学会を明示したり、それらへ参加することのメリットを説明したりすることで、学生の動機づけを高めていきたい。また、「図書館や設備の利用」については、図書館の効果的な利用を促したり、必要な設備について学生から意見を募ったりするなどして、学生が学びやすい環境を整えていきたい。

2025年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻
専攻主任名	鶴田佳子
教務主任名	川崎愛

200字以内

今期の総評
<p>2つの基礎学科の連携により研究指導体制が手厚いことが強みである。</p> <p>5点満点の専門的な力がついた、論文や研究の指導が適切、院生室等の活用は専攻の取り組みと合致している。院生研究室のコピー機やパソコン等の設備については、長期休暇中を含めて常に問題なく使用できるよう大学院担当助手が整備している。</p> <p>プリンター、パソコンとも院生のニーズにこたえるため、各学科の会議にかけて予算を計上し運用している。</p> <p>総合的な満足度は研究科の専攻のなかで最も高かった。</p>

改善のための方策
<p>ほぼすべての項目で専攻の平均を上回っているが、唯一学会参加に関しては 3.75 と平均を下回った。学部からの入学、かつ日本人の院生は1名で他は留学生であるため、専門的な知識を学びながら指導教員らのサポートで調査は実施できても、それを学外で発展させる機会を持つのは困難がある。</p> <p>再三の FD アンケート協力の連絡にもかかわらず、4名の回答しか得られなかったのも専門知識以前の日本語能力の課題が原因であると考え。引き続き、入試、オリエンテーション、授業等で研究遂行に必要な語学力を専攻全体で高める働きかけをしていく。</p>

2025年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	森部 康司
教務主任名	内田 敦子

200字以内

今期の総評

本専攻は2名在籍であり、全員から回答が得られたため、学生の状況を正確に反映した結果といえる。全体として4~4.5と高評価が多く、専門性の向上や授業内容の有用性に対する満足度は概ね良好であった。前期では研究テーマとの関連性について他よりもやや低評価であったが、今期は改善して良好な結果となった。小規模専攻ならではの個別指導の充実が評価につながったと考えられる。

200字以内

改善のための方策

全体的に4~5の高評価が多く、大きな問題点は見られないものの、共通科目や授業に対する期待度、設備面（コピー機・PC・プリンター等）の項目は相対的にやや低い評価となった。今後は授業内容や位置づけをより明確に示し、学生の期待との認識のずれを調整していくことが必要である。また、研究活動を支援する設備の利用状況を定期的に確認し、改善が必要な点については速やかに対応していきたい。

2025年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学
専攻主任名	中村 徳子
教務主任名	白敷 哲久

200字以内

今期の総評
アンケートの17項目中16項目で4.0以上と満足度の高さがうかがえる。特に、研究生室の利用と担当教員への相談については5.0と高い。低かった項目としては学会への参加で3.75だったが、回答した4名中3名が5.0ポイントと高い。今年度は、担当教員の働きかけによって多くの研究生がワークショップや学会に参加した。「開設授業科目数は選択履修の希望を満たしているか」など、授業に関する設問で4.25と他に比べてやや低い傾向があるので、来年度改善していきたい。

200字以内

改善のための方策
研究生室が過ごしやすい環境になるように物品を購入するなどして準備を進めている。来年度は新しい科目を3科目新設する。今以上に、研究生の選択履修の希望を満たすことができるようになると考えている。今年度と同様に、教育現場の視察を企画したり、ワークショップや学会への参加を促したりしていきたい。

2025年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉共創マネジメント専攻
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	李 恩心

200字以内

今期の総評
<p>専門職大学院のカリキュラムや授業内容、指導体制、オンライン教育、研究環境といった全項目において高い評価が得られた。一方で、標準修業年限が1年間であるという制約もあり、学生が課題研究または修士論文の執筆作法を修得し、研究活動に充てる時間を十分に確保することが課題となっている。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>カリキュラムについては、1年間で学位論文を執筆するための研究方法論のさらなる充実を図る。また、提出要項の再検討とあわせ、入学時に実施しているガイダンスに加え、学生への丁寧な指導を徹底する。社会人学生から高く評価されている授業時間割は、現行通り6限及び7限開講を維持し、仕事と研究の両立を支えるきめ細かな支援体制を強化する。</p>